

# 翔

NO.69

'88 APRIL



Butterfly

Beetle

Insect

百万石蝶談会

## アサギマダラの県内秋発生は可能

松井 正人

県内における本種の生態はやっと調査されだした状態で、今のところ野外で卵も幼虫も発見されていず、県内での発生は確認されていない。しかし、成虫の記録から夏と秋の発生が推測されている。そこで今回、夏発生と思われる個体から採卵し、飼育面から県内における秋発生の可能性を裏付けることにした。

## ④材料と方法

1987年9月6日押水町宝達山で交尾中のものを母蝶とし、翌7日より本棚の枠(150×60×30cm)に網戸の網を被せたケージを用い、採卵を行った。フ化したものは、その日のうちに密閉式のタッパー(3ℓ)へ移した。初齢時は1容器10～15exs単位で飼育し、齢が進むに従い数を減らしていった。初齢よりオオカモメヅル(1～2齢時に一部アズマカモメヅル)を与え、10月9日(全て終齢)からはガガイモを与えるグループと、そのままオオカモメヅルを与えるグループに分けた。ガガイモグループにはタッパーを用いず、開放式の水槽で飼育した。

これらの飼育は全て直射日光の差し込まない、明るい室内で行った。

## ④成育状況

産卵はケージに入れた7日後の9月14日より始まり、21日まで18日を除く毎日行われた。産卵数は74卵で、死亡後開腹したところ4卵残っていた。産卵植物にイケマを用いたところ、最初のうちはツルにぶら下がり、尾端を持ち上げた産卵行動をとっていたが、その度に足を滑らせ産卵できないでいた。そのうち、ツルには止まるが尾端を持ち上げようとせず、尾端に触れるケージの網に産卵を始め、更には網に止まって産卵するようになり、イケマに産卵することは無かった。産卵は1卵ずつ、やや時間をおいてゆっくり行われ、産卵行動中に驚かすと、その日は産卵しなかった。

フ化は20日より始まり、27日までに43卵がフ化し、残りはフ化しなかった。フ化率は60%と悪く、初期に産卵されたものに潰れてしまうものが多かった。

幼虫期に、1齢1ex、2齢1ex、前蛹1ex(ガガイモグループ)が死亡した。また不注意から、2exsが行方不明となり、1exを潰してしまった。

蛹化は、10月9日より食草のツル、葉、容器のフタで行われ、20日に最後の36個体目が蛹化した。このとき2exsが脱皮失敗、1exが落下により、3exsが変形蛹となったが、食草に因るものでは無いと思われる。

羽化は10月27日より始まり、雄雌入り乱れて誕生し、11月13日に最終個体が羽化した。(17♂♂19♀♀)このとき、変形蛹の3exsは全て羽化不全となった。

## ④結 果

9月中旬に産まれた卵は、室内ではあるが順調に成育し、卵期6～7日、幼虫期19～20日、蛹期19～20日、計44～47日を経て、10月最下旬から11月中旬にかけて羽化した。これは野外に於ける記録とほぼ一致(野外は11月上旬から下旬)することから、自然界でもこの時期似た様に成育し、秋に発生していることが考えられる。

## ギフチョウの初見記録

松井正人

雪が融け、桜前線が近づく頃、蝶屋はもうソワソワし、いつになく空模様が気になりだす。日曜に雲行きが怪しいと、恨めしく空を眺めているながら、やはり腰は落ち着いていない。ギフチョウの季節が近づいて来る頃は、毎年このようなのである。「平日は降っても良い、日曜だけは晴れて欲しい」と祈りながら、長い1週間を過ごす。毎年同じ思いをしながら、「今日は飛んでいるかな」と期待に胸をときめかせ、山へ向かうのである。

この期待と興奮の頃を知っていただこうと、また春先の興奮を倍増する意味でも初見記録表を作ってみた。蝶屋は毎年この頃になると空を見上げ、平日は「今頃は何処かで…」と大きな溜息をつき、日曜は「もう飛んでいても…」とやはり大きな溜息をついている。

1970年 4月19日	金沢市別所	1♂	嗟峨井淳郎
1971年 4月 8日	金沢市別所	1♂	嗟峨井淳郎
1972年 3月27日	金沢市別所	1♂	嗟峨井淳郎
1973年 3月30日	金沢市天池	4♂	松井正人
1974年 4月 4日	金沢市天池	5♂	松井正人
1975年 4月 4日	金沢市天池	2♂	松井正人
1976年 4月 1日	金沢市天池	2♂	松井正人
1977年 4月 5日	辰口町和気	1頭目撃	松井正人
1978年 4月10日	金沢市平栗	1♂	嗟峨井淳郎
1979年 3月28日	金沢市田島	2頭目撃	松井暢人
1980年 4月 4日	金沢市平栗	3♂	吉村久貴
1981年 4月 7日	金沢市平栗	8♂	吉村久貴
1982年 4月 4日	金沢市平栗	3♂	吉村久貴
1983年 4月 5日	金沢市三小牛	10♂	中西朱美
1984年 4月14日	辰口町和気	1♂	嗟峨井淳郎
1985年 4月 6日	金沢市窪	1♂	嗟峨井淳郎
1986年 4月12日	金沢市二俣	多数目撃	松井正人
1987年 3月21日	辰口町和気	1♂	横山 隆

この表からギフチョウが飛び出すのは、平年で4月5日。1988年は暖冬であったことから、平年より10日は早いと思われる。また去年は3月21日といった記録も出ていることから、今年の落ち着かない季節は、3月中頃より始まりそうである。ここでお願いがあるのだが、より完全な表を作り興奮度を高めたいので、更に早い記録がありましたら、どうかお知らせ下さい。

最後になりましたが、記録表を作るに当りデータを提供して頂いた、嗟峨井淳郎、吉村久貴、中西重雄、橋場 清の各氏に厚くお礼申し上げます。

## 中国・桂林の蝶

松井 正人

1986年、友人が環境教育訪中団の一員として、湖南省を中心とした地域へおもむく折、「虫を採ってきてくれ」と、網、三角紙、毒ピン等をゆだねた。

うわさによれば訪中団は、学校や工場といった施設を次から次へと見学するスケジュールが、ぎっしり詰まっていて、おまけに交歓会もあり、大変疲れるものらしい。しかし彼は、せっかく預かった道具を無にすることは、友人をも無にする事につながると、何とか虫を採ろうと考えた。日中は見学、夜は交歓会となると、残された時間は朝しかない。見学も都市部ばかりとなると、場所は公園しかない。と言った訳で、彼は早朝ホテルより抜け出し、近くの公園や、そこへの道すがら網を振った。

採集品は、チョウ、ガ、ハナムグリ、カメムシ、トンボ等20頭で彼の苦労がしのばれるものばかりであった。一部ではありますが、ここに発表し彼こと松永之和氏の厚意を深く感謝します。また採集品の同定に当っては嗟峨井淳郎氏に大変お世話になりました、ともにお礼申し上げます。

データ 1986年8月15～25日 桂林市の街路、及び公園



上段左よりホソオチョウ、ベニモンアゲハ、シロオビアゲハ♂  
 中段左よりアオスジアゲハ、キタテハ、キタテハ、モンシロチョウ  
 下段左よりヒメフタオ、フタオチョウの仲間、シロオビアゲハ♀

## 白峰村砂御前山にて

嗟 峨 井 淳 郎

砂御前山でゴマシジミが採れると聞き付け、娘と2人ピクニックがてら出かけてみた。向かうにつれ怪しい雲行きから大雨となり、百合谷林道終点で少し早い昼食となる。青空が広がり出したところで、再び砂御前山目指し、入れる限り車を乗り入れる。終点近くには林道を包込む様にヒヨドリバナが咲いていた。MM氏マーキングのアサギマダラでもと調べてみれば、吸蜜中のムモンアカシジミが見つかった。林道終点からは、娘と2人でなければ帰りたくなるような、さみしい山道。MM氏言うところのゴマポイントまで約50分。足場が悪く、それらしいのが飛んでいても手の届き様がない。どうにか足場の良い叢で1頭ネットイン。アサギマダラは飛んでいたが採集できず。後はまた、ヒメキマダラヒカゲしか飛ばないさみしい山道をくだるだけである。

1987年8月9日 石川郡白峰村砂御前山 嗟峨井淳郎

ムモンアカシジミ	1♂	アサギマダラ	1ex目撃
ゴマシジミ	1ex	ヒメキマダラヒカゲ	目撃
ミヤマカラスアゲハ	2♀	モンキチョウ	目撃

## Self introduction

指 田 春 喜

〒920 金沢市材木町 8の3 Tel. 0762-61-0580  
血液型 B型 昭和25年3月31日生まれ 北陸大学薬学部教員

東京・八王子で生まれ育ち、この金沢に移り住み、12年の歳月が流れました。虫とのつきあいは多くの方がそうであるように、セミ採り、そしてバッタ、カブトムシの採集をした子供の頃からであります。その後は、蝶の成虫一本やりであります。現在手元には、1961年の東京で採ったゴマダラチョウ、ウラギンシジミなどの標本から残っています。国内では、自分の手で約220種の成虫をネット・インしましたが、この間、採卵をはじめ、飼育はほとんどした経験がなく、また、石川県内ではほとんどネットを振っておりません。そこで、これらの点につき、会員諸先輩方に教えていただきたく、今回入会いたしました。

この2、3年は、遅ればせながら台湾での採集に熱中しており、蝶の楽園で出会う初めての蝶に夢中であります。特に昨夏8月にフトオアゲハ(完全品♂)を採集した感激が益々私をチョウチョウから離れなくしております。

例会・採集会などはもちろん、個人的な採集にもできるだけ積極的に参加するつもりでありますので、よろしく願いいたします。

## アオマイマイカブリの島、粟島へ

中西重雄

1987年は、1月に前の会社より独立して、とても忙しい年であった。春先からほとんど採集にも行けず、あっという間に1年が過ぎてしまったが、何とか11月22、23日の連休に、新潟県岩船郡粟島へオサ掘りに出かける事ができた。

粟島は、新潟県村上市の岩船港から定期船で1時間45分、佐渡島の上の方にある日本海に浮かぶ島で、大きさも能登島の1/3程の小さな島である。

11月21日深夜、金沢を立ち、早朝岩船港に着く。岩船港で船の時間を調べると、なんと11月から3月まで1日1便しかなく、それも岩船発が14時、粟島発が9時ちょうどで、時間的に2日では採集時間がほとんど無い。迷ったあげく、せっかく粟島を目指しここまでやってきたし、時間が無くても10頭位は採れるだろうと思いつつ、いつもの如くなんとか成るだろうと、粟島へ渡る事に決める。しかし船の出発まで半日もあるから、村上市近くの山でマイマイを掘って時間をつぶし、14時発の定期船「みゆき丸」で粟島へ渡る。島へ着いたのが16時近くであるから、まずは宿捜しである。港の近くには民宿が並んでおり、「弥三郎」と言う所に決める。落ち着くともう夕暮であり、その日は島へ来ただけで終わってしまった。

夜、宿で明日の作戦を考える。夜明けから船の時間まで2時間半位しか時間が無い。しかし、船上から島を見た限りでは自然林もかなり残っていそうなので、2ヶタ採れれば帰る、2ヶタ採れなければもう1日ガンバル覚悟で床に就く。

2日目は5時頃から起きだし、薄暗いうちから掘りに行く。時間が無く、焦るばかりでなかなか採れない。結局、時間までには2頭しか採れずじまい。これでは金沢に帰れないと思い、民宿へ戻りオバチャンにもう1日泊まる事を伝える。「よし、もう一度仕切り直しだ」と思うと、朝食は大変うまかった。

宿でパンフレットを見ると、島を横断する県道が1本しかなく、島を回る道は遊歩道(サイクルロード)しかない。距離も20km近くある事から、民宿の自転車を借りて採集に出る。出発して間もなく、小高い丘の上から海を見ると、先程船出した「みゆき丸」が豆つぶ程に見えた。この日は11月ももう終わりだと言うのに大変温かく、とてもいい天気で、これで思う存分オサ掘りが出来ると思うと、良い成果も上がりそうで、なんだかウキウキしてきた。粟島の環境は1/3程が竹や杉の植栽地、あとは畑と自然林で、櫟、山桜等の木が多い。崖は少々乾燥ぎみで、小さな島でもあり、崩すと目立つので、クロオサが少々採れれば良いと思い、あまり崖掘りはしないで朽木で攻める事にする。朽木は本州にあるような朽木とはかなり雰囲気違っており、カラカラに乾いたような木が多く、オイシソウだと思えるようなものはほとんど見当たらない。そこで、生木の枝の折れた後のホコラ等を捜す事にする。

まずは大きな桜のホコラをほじくる。小さな小枝で腐葉土を掘ると、出るわ出るわで、最初の木から16exsものアオマイマイが採れてしまった。作戦は見事

成功したのである。それからは、櫻、桜等のホコラをどんどん掘り、この日1日でなんと100以上のアオマイマイカブリが採れたのであった。

これで大漁旗をおったてて金沢へ帰れると、その夜はあまり飲めないビールで一人、祝杯をあげて寝たのだが……。翌日は目を覚ましてびっくり、低気圧の接近で前日とはうってかわり、アラレともすごい風である。船が出るか心配しながら朝食をとっていると、島の広報車が、「定期船は欠航します。定期船は欠航します。」と繰り返している。それを聞くと目の前が真っ暗になり、食事もそこそこに部屋へ戻る。無人島にでも取り残されたような気分であった。この日帰れないと、仕事も3日休まねばならず、大変気が重い。あれこれ考えてみたもののどうにもならず、10時位まで部屋に閉じこもっていたが、せっかく粟島にいるのだからと、悲惨な日ではあるが採集に出ようと決心する。宿で弁当を作ってもらい、風と雪の中へ飛び出したものの、気分ものらずカンもまったく冴えない。この日は20頭のアオマイマイが採れただけであった。

4日目の朝、早く起きて外へ出てみると、風は少々あるが何とか船が出そうな雰囲気、ひと安心する。

今度の採集は何と足かけ5日もかかってしまい、喜ぶべきか悲しむべきか。まあなにはともあれ、目的のものはガツポリ採れたのだし、私には5日間もの採集に出るなんて、ふだんでは不可能な事でもあるのだから、まずは良い採集行であった事にしておこう。

### 対馬産フタスジゴマフカミキリ(キリシマゴマフ)

井村正行

カミキリの中でも稀な種と言われているフタスジゴマフカミキリ *Mesosa cribrata kirisimana* MATSUSHITA が対馬の松の材より羽化したことを聞き、私も本種を採集しようと対馬へ行き、赤松の材を持ち帰った、この材より1986年6月20日から7月10日にかけて11exsの本種が羽化し、まだ羽化しそうである。

材は対馬の厳原港の海岸で波しぶきもかかろうかという場所にあった比較的新しい高さ10m位の赤松の立枯で、その1.5~4cm位の太さの枯枝である。幼虫は樹皮下を食し、蛹室も樹皮下で辺材部をボード状に浅くえぐり、蛹室の回りを荒い木くずで囲ってあった。

### キマダラヤマカミキリをクリ園にて採集

松井正人

本県では少ないと思われるキマダラヤマカミキリを採集したので報告する。

1987年6月12日 金沢市伝燈寺 1♀ 松井正人

雑木林に囲まれたクリ園でクリを揺すっていたところ、本種が落下した。花に来ていたものか、単に止まっていたものかは不明。

## 白山のクリとカミキリ

井村 正行

白山山麓には、クリをホストとして、またその花を後食物として生活しているカミキリが大変多い、そこでその一部を紹介してみたい。

1979年、白山大杉谷林道で、冬に裂けたと思われる直径15cm位の枝を見つけた。春には芽吹き、6月頃には多くの葉が茂っていたものの、夏には衰弱して葉を落した。このクリの枝に6月頃、トウキョウトラ、ヨツボシチビヒラタ等が飛来していたので、秋に採集してきたところ、翌年の春(1980年)には、1cm位の細い所からムモンベニ、太い所からヨツボシチビヒラタが羽化し、翌々年(1981年)には、トウキョウトラ、シラケトラ、エグリトラ、ヨツボシチビヒラタ等が羽化した。

その他、この地のクリの伐採木からは、チャイロホソヒラタ、*Pterolophia* 類、*Mesosa* 類、クリイロチビケブカ、クリチビ、ハネビロハナ等が見られ、クリの古い切株からはヤマトキモンハナが、太いクリの生木の幹からはマツシタトラが見られる。更に花からは、*Pidonia* 類、テツイロハナ、*Lemula* 類、キモンハナ、フタコブルリハナ、カラカネハナ、その他多くのハナカミキリやトラカミキリ等が見られる。

このように、白山山麓にはクリを生活圏としているカミキリが大変に多い。

## アサギマダラ・マーキング一覧(1987)

1987年に蝶談会が行った、アサギマダラのマーキング結果です。マーク日、マーク地、マーク者の氏名、電話番号が黒マジックで裏面に書き込んであります。11月のものは飼育ですが、再捕獲の可能性もあるので載せました。

マーク日	マ ー ク 地	マ ー ク 数	備 考
8月7日	白峰村白山釈迦岳	7♂♂	
8月29日	"	2♂♂	
9月6日	押水町宝達山	6♂♂	
7日	"	3♂♂1♀	
8日	"	5♂♂4♀♀	
13日	"	21♂♂10♀♀	
19日	"	2♂♂4♀♀	
20日	"	22♂♂10♀♀	
27日	富来町荒屋	2♂♂	
11月1日	金沢市大場	6♂♂8♀♀	飼育個体
7日	"	8♂♂4♀♀	"
8日	"	1♂	"
計		85♂♂41♀♀	



## 1988年 私の抱負

井 村	他力本願ありありでカミキリ500種を達成する。皆さんの御協力を期待します。
田 中	マイペースでのんきにポチポチやります。ウラキンの落下傘行動は調べたい。
中 西	マイペースで採りたいものはガンガンせめる。欲しいものは必ず採集する。
田 辺	資金準備をしっかりとしてから、あちこち出沒する。
近 藤	年賀郵便1等のビデオカメラで兼六園のクリスマス撮る。それとカンアオイの授粉をするハエを調べる。
山 岸	ギフ異常型の累代飼育を試みる。それと福井のキマルリを狙う。更にはインドネシア渡航も考えている。
野 村	できるだけ皆さんと虫採りに参加する。
吉 村	採りたいものをポチポチせめる。今年は九州遠征も考えているので同行者を募集しています。
細 沼	厄年なので殺生せずに、じっと1年の過ぎゆくのを待つ。とは言っても、適当にやります。
松 井	春はギフの初見記録更新に励み、その後はただひたすらアサギマダラに打ち込みたい。
指 田	皆さんの情報を頼りに、甘い汁をすいたい。5月には台湾で、もう一度手が震える採集を期待したい。
澤 田	今年も何かのにめりこみたい。例えば、医王山の四季移りゆく昆虫相とか。

## 会員の動き。しゃばの動き

●後翅にB斑がでたアイノが採れている。採卵羽化によるものだが、昭和47年頃、三蔭外茂治氏がキゴ山青年の家付近で10卵程採集した中から、1♀羽化したもの。

●野中氏、帰国を8月まで延期。どうにもこうにもカナダの黄色いパルに取り付かれてしまったらしい。黄色いパルをネットしたい人は、早めに氏に連絡すること。渡航費以外の面倒は全てみてくれるよ！

●2月7日猛寒波にもめげず、テカテカのアイスバーンを走り、輪島まで出かけた3人組がいる。言わずと知れたS、N、Mで、現地は吹雪だったらしくエモノはほんのチョップリ。

●2月20日松井氏、医王山ムモンポイントへ。積雪1m程度、夏場では動きのとれない所を捜し回り、アリゾロを5~6本見つけてきた。

●岐阜昆同の宮野氏、本県で行ったヒサマツ調査の結果を発表。あちこちでヒサマツをものにしてしている氏からすると、千束川、犀川上流は、環境は良好、生息も不思議じゃないようです。(だんだらちょうNO.17より)

●台湾産蝶類生態写真集が出版された。写真集か定かではないが、ピカピカのフトオアゲハの写真等、美しく胸おどる写真がギッシリ。採集地も38箇所取り上げ、色々書いてある。何と行っても価格が9,500円と、今頃の豪華本には絶対無いお値段。

「ランタナの花咲く中を行く」  
A4版184ページ、原色オフ64ページ  
内田春男著 自費出版

●田中先生、最近はおっぱら俵辺りでウラキンの調査。カンジキ履きで山中をかけ回り、多数の卵を調べたところ、だいたい背丈より低い所に産まれていて、地際ばかりじゃないらしい。

●3月13日田中氏、カゼでダウン。無風で稀にみる快晴の採卵日和にもかかわらず、独りフトンの中で7日後の作戦を練っていた？

●3月14日松井氏、辰口辺りへギフの下見。日当たりが良くて、カンアオイのたくさんある所を捜しに行きたらしい。

●3月14日中西氏、三小牛へ。毎年、ギフの発生がいつごろになるか、雪の状態で判るらしい。

●3月14日松田氏、久々の快晴にのんびり庭を眺めていたら、イボタが芽を吹いていた。早速、吊るしてある卵を調べたところ、ウラゴマのいくつかに穴が開いていたらしい。

●澤田氏、虫も採らずにスキー三昧。13日は一里野、19日は八方。当然ギフの初見記録更新作戦からは離脱。

●3月17日金沢にツバメが飛来。過去30年で最も早いらしく、平年より16日早いとのこと。ギフの平年が4月5日ならば、今年は3月20日には発生するかな。

●3月17日「白山のコヒオドシ」8ミリ映写会PART I。10年前に撮られていた貴重なフィルムを中西宅にて映写。標本を持ち出して見比べ、コヒオドシに違い無いと確信する。確認者は澤田、中西、松井。

☑ 3月18日「白山のコヒオドシ」8ミリ映写会PART II。貴重なものは大勢で見ないと末代の損と、第2段は農試で映写。竹谷、田中の2氏が新たに確認。

☑ 「小動物のサンクチュアリ」を作ろうと県が3年がけで事業を始める。場所は夕日寺健民自然園で、63年はとりあえず、オオムラサキを期待してエノキを植えるらしい。

☑ いよいよ飼育シーズン到来。ところが蝶談会の卵在庫は乏しい限り。  
松田 ウラゴマ、ヒサマツ等 少々  
澤田 ウラゴマ、ミーカラ わずか  
松井 アイノ、ジョウザン 数卵  
田中 ウラゴマ、 いくらか  
ゼフ熱、採卵ブームは去ってしまったのでしょうか。2、3年前とは比較になりません。

☑ 松井氏、19、20日と辰口温泉に1泊してまで1番ギフの確認に努めたが、ボツったもよう。19日はやや雲が多く、20日は風が冷たかったとか。

☑ 未確認情報によれば、石川県の自然をアピールする写真集を、シリーズで出す目論みがあるらしい。第1段は「白山のブナ帯」、第2段は鳥がテーマで、3段は昆虫がテーマになるらしい。

☑ 3月20日田中氏、せっかくの採卵日和に何処へも行けず。町内会のドブさらに精を出す。

☑ 3月20日中西夫人、辰口から小松にかけて、ギフの調査。まだチコッと早かった感じ。

☑ 3月21日ギフまたもやタイ記録かと思われたが、曇り後雨で蝶屋は泣いていた。

☑ 3月24日快晴。松井氏の期待を一身に背負った中西夫人、1番ギフを求めて辰口町へ。車の中からギフが飛び出すのを待っているうち、いつしか春のまどろみの世界へ。

☑ 3月24日田中氏、3月に入って1番とも思われる好天に誘われ、医王山へ。車は見上峠までしか入れず、峠付近を散策。

☑ 「自然人」3号もう見ちゃったかな。今回は恐竜特集で、何と恐竜の写真は全て小幡氏の力作。つづく自然美術館には竹谷氏18番の春の蝶がズラリ。このコーナーいままで独占したカメラマンは無く、氏が初めて。また We Love Shizenjinには、松井夫人がムシヤや蝶談会を紹介しながら会員を募っている。

☑ 3月27日松井、田中、澤田の3氏、1番ギフを確認せんと、トランシーバーまで持ち出し団体戦を展開する予定だったが、朝から雨。午後から回復したものの、トランシーバーの出る幕は無かった。勢い余った3人は嗟嘆井宅を急襲したものの、もぬけのカラ。さらばと中西宅になだれ込み、ギフの発生から自然保護行政まで、なんやかんやと駄弁った。

☑ 3月28日快晴に誘われたムシヤ2人。M氏はしぶとく辰口へ、N夫人は野田山周辺を調査。あいにくとギフはまだ発生していなかった。

☑ 松井氏、県内の蝶の記録を整理せんと、パソコンに入力している。今のところ5000件程入力済みで、種別、採集地、日、者別に検索できる。ちなみにギフで300件、ウスバシロで150件のデータがあるってさ。

最近の「昆虫と自然」には、大変不満がある。内容もさることながら、値段が高すぎる。記事が少ない割に、増大号とか称し、価格だけが割増となる。それになぜか臨時増刊号が良く出る。その分、1冊の重みを増して欲しいものである。

### 例会の記録

2月5日20時から24時まで、城南管工2Fにて開催。今回のメインは「翔」の印刷化に伴った発行部数の増加をどう処理するかであったが、会紙交換の増と、謹呈で対処することとなった。その他は1987年10大ニュースの副賞授与と、標本箱共同

購入の話でした。

また澤田氏のお骨折により、オトシブミで知られる三蔭外茂治氏の特別出席がかない、石川県昆虫界の知られざる世界について、興味深い話を聞くことができました。例えば、氏は県内ゼフ採卵の祖で、氏の影響から時国健太郎氏が採卵にのめった事、当時蝶屋だった入場登氏(現県内ピカイチ甲虫屋)がカミキリの面白さに取り付かれた事、等々。

出席者は、井村、田中、近藤、細沼、山岸、指田、野村、松井、澤田、竹谷、田辺、吉村、中西(2人)の14名。尚、指田氏は新入会員。

## 目 次

松井正人：アサギマダラの県内秋発生は可能	1
松井正人：ギフチョウの初見記録	2
松井正人：中国・桂林の蝶	3
嗟峨井淳郎：白峰村砂御前山にて	4
指田春喜：Self introduction	4
中西重雄：アオマイマイカブリの島、粟島へ	5
井村正行：対馬産フタスジゴマフカミキリ(キリシマゴマフ)	6
松井正人：キマダラヤマカミキリをクリ園にて採集	6
井村正行：白山のクリとカミキリ	7
編集部：アサギマダラ・マーキング一覧(1987)	7
編集部：1988年私の抱負	8
編集部：会員の動き・しゃぼの動き	9
編集部：例会の記録	11

とぶ NO.69

1988年4月8日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方  
百万石蝶談会  
☎ 0762-58-2727  
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所